

# 制服の落下点

作・木村繭真

登場人物（女性4名）

渡邊

まあこ

ミレー

ポン

幕が開く。  
何も無い舞台に、一人、渡邊が立っている。

渡邊 「こんな世の中狂ってる」。あの日マユミは言いました。電話の向こうで、笑ってました。もうヤケクソって感じで、「アハハハハハ！」って、地面へと落ちていきました。……「バアンッ！」……逝っちゃった。マユミ、逝っちゃいました。

まあこが、渡邊の背後を走り抜けていく。  
渡邊、目の前の地面に視線を移し、地べたに座って見つめる。  
そこはマユミの落下点。背後にそびえるマンションの10階から、彼女は飛んだ。まあこが反対側からまた走ってきて、渡邊に声を掛ける。

まあこ ねえ。

渡邊 ？

まあこ よつ。

渡邊 あ、まあこー。

まあこ 久しぶり。

渡邊 久しぶりー。

まあこ めっちゃ懐かしい。

渡邊 もう1年半だよ。

まあこ 早いー。

渡邊 えー、なんかおつきくなかった？

まあこ いや、変わんないよ。もう伸びてない。

渡邊 身長じゃなくて、

まあこ えっ、ちよつとどこ見てんの！

渡邊 違うよ、全体的に。

まあこ しつれー。

渡邊 いいじゃんー。

渡邊、まあこの足を触る。

まあこ やだ、ホントやめて。

渡邊 陸上まだやってるの？

まあこ やってる。

渡邊 だよ、良い筋肉してる。

まあこ 誰だよ。

渡邊 ふくらはぎ、審査員。

まあこ 余計に謎だよ。

渡邊 あなたはAランク。  
まあこ 自分は？

渡邊 私は、C。

まあこ 微妙ー。

渡邊 運動してないから。

まあこ 部活は？

渡邊 演劇部、入ったけど辞めた。

まあこ どうして？

渡邊 んー、

まあこ どっかいしょ（座る）。

渡邊 おばさん。

まあこ まだ16ですー（渡邊の顔の傍で、べーっとする）。

渡邊 （振り払って）私何してんだろって、思っちゃったんだ。

まあこ 中学からやってたのに。

渡邊 なんだろ、無意味だなんて。

まあこ 悟ったの？

渡邊 そう。

まあこ まあ、色々あるよね。

渡邊 うん。色々ある。

（『人生いろいろ』のサビを歌い始める）

渡邊 古くない？

まあこ ばあちゃん好きなのよ。

渡邊 元気？

まあこ うん、バリバリ。

渡邊 （続きを歌う）

2人、合わせて歌い始めるが歌詞が分からず鼻歌になる。  
笑う2人。そこへミレーがやってくる。遠くから2人を見ている。  
まあこ、ミレーに気づく。渡邊はまあこの視線を追って、

渡邊 あ、

まあこ 知り合い？

渡邊 うん。

ミレー、近づいてくる。

渡邊 結局来たんだ。

ミレー 気が変わった。

ミレー、しゃがんでリュックから板チョコを出し、落下点に供える。

ミレー ここでいいんだよね？  
渡邊 うん。

ミレー、目を瞑って手を合わせる。

まあこ 同級生？  
渡邊 うん。同じクラス。

ミレー、目を開けてまあこに、

ミレー 井上美玲です。お世話になってます（握手を求め）。  
まあこ あ、どうも、こちらこそ（応じる）。

（渡邊に）誰？

渡邊 ああ、中学の同級生。

まあこ 浅山琴です。

ミレー コト？

まあこ はい。

ミレー コトって、あの、琴？

まあこ うんうん、あの琴。

ミレー へえー。いいね。

まあこ どうも。

渡邊 本人は気に入ってないの。

ミレー えー、可愛いじゃん。

まあこ えー、いやだ。

渡邊 みんなに「まあこ」って呼ばせてるの。

まあこ 何その嫌々呼んでるみたいな。

渡邊 私も琴って可愛いと思いまーす。

まあこ 今さらだなあ。

ミレー まあこちゃんも、マユミちゃんと同じ中学なの？

まあこ うん。

ミレー どんな子だった？

まあこ どんな子、かあ……。

ミレー 私、喋ったことなかったんだよね。

まあこ じゃあ、どうして？

ミレー ん？

まあこ いや、何か、関わりあるんだろうなーって思ってたから。

ミレー 特に、無い。クラス同じになったことないし、演劇部でもないし。

渡邊 ミレーさ、

ミレー やめてよ。

渡邊 だって、  
ミレー 私の勝手でしょ。

渡邊 マユミは、そんな風に見て欲しくないと思う。

ミレー マユミちゃんじゃないのに分かる？

渡邊 ……。

ミレー また同じこと言ってるじゃん。そういうのが嫌で辞めたんじゃないの？

渡邊 だって、

ミレー だってじゃないよ。

渡邊 ……。

まあこ ねえ、何か知らないけど、やめなよ。

まあこ、落下点を見る。

2人も見る。

ミレー 尊敬してる。

まあこ ん？

ミレー マユミちゃんのこと。

渡邊 ねえ、

ミレー だって実行したんだよ？ 口だけじゃなくて、やったんだよ？

渡邊 だから何？

ミレー 分かんない？

渡邊 分かりたくない。

ミレー ……。

まあこ それは、ちよつと、私も嫌かも。神格化、みたいなことでしょ？

渡邊 そうだよ。絶対嫌だよ。

ミレー 嫌でも、もう起こったんだよ。強いよ、行動は。衝撃だよ。神だよ。

渡邊、ゆつくりと手を伸ばし、ミレーの頬を軽くつねる。

ミレーはつねられたままじつと渡邊と見つめ合う。

渡邊 やめてよ。

ミレー、つねられたまま、地べたに腰を下ろして溜息をつく。

ミレー 別に、死のうなんて思っていない。

ミレーの頬をつねる指が、少し緩む。

まあこ マユミは、強かったよ。確かに。

渡邊、頬から指を離す。

まあこ 中1のときさ、マユミンち、お母さん出ていったのよ。

渡邊 そんなこと言わなくても。

ミレー なんて？ 聞きたいよ。

渡邊 でも、ひとの家のことだし、

まあこ うちら知ってるじゃん。

渡邊 それは、だって……

まあこ マユミのことをさ、知ってて欲しいなって、思った。このまま消えていくのは嫌。

渡邊 ……。

ミレー ありがとう。

まあこ (首を横に振る) マユミ、いつの間にかお母さんみたいになった。クラスのみんなの世話焼いたり、時々叱ってくれた。憶えてる？ 給食のカレー廊下で全部こぼれたときのこと。

渡邊 あー。

ミレー 何それ、やばいね。

渡邊 男子がさ、鍋運んでる女子にちよっかい出したんだよね。

まあこ そう。

ミレー あれでしょ？ その男子は女の子のこと好きだったっていう。

2人 そうそう。

ミレー ありがちー。

まあこ 女の子は泣いちやって、

渡邊 男子も半泣き。

ミレー うわー、地獄絵図。

ポン そこへマユミの登場よ。

2人 そう。

ミレー え？

いつの間にか、ポンが3人の後ろに立っている。

2人 うわっ！

ポン マユミは給食室と、ほかのクラス、学年まで回って集めてくれた。「カレー分けてください」って。

ポン、泣く。

まあこ あ、ちよっと、

渡邊 ポンー！

ポン うわああああん。

渡邊、ポンを慰める。

ミレー ねえ、この子ってもしかかってその子？

まあこ うん、その子。

渡邊 よしよし。

ポン マユミいー。

ミレー 愛されてるね。

まあこ ポンは特にね、仲良かったから。

渡邊 何、今日は何持ってきたの。

ポン、レジ袋の中から500mlコーラと米2kgを出して置く。

ミレー ねえ、ここだけ見たらすごい不健康なんだけど。

ポン お米、「高い高い」っていつつも言ってたから……。

ミレー ……。

まあこ 炭酸ばかり飲んでたよね。

渡邊 げぼげぼ言ってたね。

まあこ そう、わざとかってくらい。

ポン、しゃがんで手を合わせる。

ポン マユミ。良かったね。今日は賑やかだ。

3人、目を合わせる。

そして3人も手を合わせる。

ポン ねえ、龍ちゃん見なかった？

まあこ いやあ、

渡邊 見えない。

ミレー 誰？

ポン、ミレーのほうを向いて、首を傾げる。

渡邊 あ、こちら私の同級生の、井上美玲さん。

ミレー どうも。

渡邊 で、こちらが本田ちさとさん。

ポン マユミと同じ高校？

ミレー うん。

ポン マユミ、学校でどうだった？ 元気なかった？ なんてかなあ？ なんて……

ポン、また泣きそうになる。

まあこ ねえ、それより龍ちゃんどうしたの。

ポン あ！ そう、今日うちで夕飯食べる約束なのにまだ来ないの。

渡邊 早くない？

まあこ まだ5時だよ。

ポン 来るときはもう来てるんだもん。

渡邊 部活じゃないの。

ポン ううん。月曜だけらしいから。

まあこ それなんの部活よ。

ポン パソコン部。

渡邊 何それ。

まあこ 家は？

ポン 鍵しまった。ベル鳴らしても出ない。

渡邊 居残りとか？

ポン だから今から行ってみようと思って。

まあこ 心配しすぎじゃない？

ポン そうかな。

渡邊 反抗期か。

まあこ あー。

ポン ならいいけど……。

ミレー ねえ、龍ちゃんって誰？

渡邊 マユミの弟。

ミレー えっ、弟いたの？

ポン 龍ちゃんのお父さんの帰りが遅いときは誘ってるの。

ミレー 仲いいね。

ポン うん。家族ぐるみで。

ミレー 何年生？

ポン 中1。

ミレー あー。寄り道とか。

まあこ あり得る。

渡邊 探す？

ポン どうしよ。もうちょっと待とうか。

ミレー 携帯持ってないんだよね？

ポン うん。

まあこ まあもう中学生だし、男には男の付き合いってのがあるのかもねえ。

渡邊 何それ。

まあこ えー？

渡邊 またおばさんっぽかった。



ポン 確かに。

4人、笑う。

ポン じゃあ、あと30分待ってみる。  
渡邊 うん。

ポン、携帯を確認して、仕舞う。  
自然と落下点を見つめる4人。  
ふと、まあこが顔を上げ、

まあこ だいぶ日が伸びてきたね。  
渡邊 うん。

ミレー 夏の匂いがする。  
ポン 今年も暑いかなあ。  
まあこ やだー、焼けたくない。

渡邊 出すもんね。  
まあこ そうだよ。無駄にさ。  
ポン あ、陸上部かあ。

まあこ うん。  
ポン そうだよねー。  
渡邊 ポンは？

ポン 帰宅部。  
まあこ あれ、バスケットは？  
ポン 入んなかった。

渡邊 そうなんだ。  
ミレー 帰宅部って言い方、面白いよね。  
まあこ ああ、部活じゃないっていう。

渡邊 誰だろうね。  
ポン 何？  
渡邊 最初に思いついた人。

まあこ さあ。  
ミレー 寂しかったのかもね、その人。  
まあこ なんで？

ミレー どこかに所属したかったのかも。  
渡邊 入りたくても入れない、とか？  
まあこ そう考えると切なくなるね。

ポン 帰宅部。  
ミレー 不本意な帰宅。  
渡邊 ポンも？

ポン ……かもね。中に入ってみると、ついてけないって思った。ほかに行くところもなくて、入らなかった。

渡邊 そうなんだ。

ポン でも自由だし、今は勉強したいからちょうど良かった。

まあこ 何、どこ目指してんの。

ポン (上空を見上げて) できるだけ、高い所。

ほか3人も見上げる。

ミレー マユミちゃんってさ、中学では何部だったの？

ポン 吹奏楽。

ミレー えっ、そうなの？

ポン うん。サックス吹いてた。

ミレー 嘘、何？ 何吹いてたの？

ポン あー、あのほら、一番大きいやつ (サイズを示す)。

ミレー バリサクかー。

ポン かつこよかつたよー。

ミレー 良いよね。

ポン 家に持って帰るときさ、重そうだから手伝おうかって言ったら、

ミレー え、歩きで？

ポン うん。

ミレー どれくらい？ 距離。

ポン えー、30分くらいかかるよ。

ミレー マジか。

ポン 手伝おうとしたら、「大丈夫」って汗垂らしながら頑張るのさ。

ミレー かつこいいね。

まあこ ミレーちゃんって吹奏楽部なの？

ミレー うん。私も中学から。

渡邊 ソロとかやつちゃうんだよ。

まあこ なんの楽器？

ミレー トランペット。

ポン あれって難しいんでしょ？

ミレー ー、でもかつこよくはない。

まあこ そう？

ポン 楽器できるって憧れる。

まあこ わーちゃんってピアノ、

ポン あ、そうだよ。弾いてたよね。

ミレー へえ、そうなんだ。

渡邊 もう弾けない。

まあこ 中2のとき、音楽室でさ、

ポン あー！  
渡邊 ねえー。  
ミレー 何？  
まあこ 先輩に告白されてんの。  
渡邊 ちよつとホントやめて。  
ミレー うっそ。  
ポン あれ秋だったよね？  
まあこ そうそう、もう受験だったのに何やってんだって、  
ポン やめとけやめとけーって言ってたよね。  
ミレー 誰が？  
まあこ みんな。  
ミレー みんなって、  
ポン うちの学年の女子。  
渡邊 いいじゃんもうその話やめよう。  
ミレー 結局どうなったの？  
まあこ 付き合っではないよね？  
渡邊 付き合う訳ないじゃん。つか、みんなが騒ぐから自然に消えてったよ。  
ポン あれってなんで広まったんだっけ。  
まあこ えー？  
渡邊 マユミだよ。  
ポン 何、なんかあったの？  
渡邊 準備室にいたんだよ。  
ミレー 告白された時？  
渡邊 (頷く)それで「やめとけやめとけ」って、ずっと言うもんだから、ポンとか、まあこ  
まあこ そうだっけ。  
渡邊 そうだよ。  
ポン 憶えてない。  
ミレー 「やめとけ」って言われるってことは迷ったの？  
渡邊 別に、迷ったっていうか……、  
ポン 迷ってたよ。  
渡邊 え？  
ポン ね。  
まあこ まあ、そうだね。  
渡邊 もう、憶えてない憶えてない！ やめよ。  
ミレー 案外、マユミちゃんってお節介？  
ポン 心配性かもね。  
まあこ 猪突猛進っていうか。  
渡邊 それ合ってる？  
まあこ つかさ、なんで演劇部入ったの？

渡邊 え？  
まあこ マユミ。  
渡邊 いやあ、そういう話は、したことないかも（ポンを見る）。  
ポン ー、「なんとなく」って言ってたよ。  
ミレー なんとなく……。  
渡邊 でも楽しそうだったよ。すごい、元気だった。  
ポン 声出してた？  
渡邊 出してた。  
まあこ うるさそう。  
ミレー 文化祭のときって、マユミちゃん出てた？  
渡邊 うん、出てた。  
ミレー 誰役？  
渡邊 あの、天狗の子。  
まあこ 天狗？ 何やってんのそれ。  
ポン なんか伝承のヤツでしょ？  
渡邊 そうそう。  
ミレー おどぎ話的な。  
まあこ へえ。  
ポン 一回さ、（正面を指し）あの公園で声出してもらったの。  
まあこ 出してもらったって何？  
渡邊 演劇部の良い声ききたくて。  
ポン あそこで？  
渡邊 小学生とか遊んでる中で「アー！」って。  
渡邊 やばくない？  
ポン 超見られてた。  
まあこ ねえ、今のもっかいやってよ。  
ポン どれ。  
まあこ 「アー！」って。  
ポン やだよ。  
渡邊 わーちゃん本家じゃん。  
渡邊 ちよっと、  
まあこ ききたーい。  
渡邊 いや、歌じゃないんだから。  
ポン 本気のやつお願い。  
渡邊 ポンはしよっちゅう聴いてたでしょ。  
ポン そうそう、たまにボール飛ばしちやったりして。  
渡邊 笑いごとじゃないんだからね。  
ポン すみません。  
ミレー じゃあ、宜しくお願いします。  
渡邊 ここで！？

まあこ 誰も来ないよ。  
ポン 恥ずかしいの？  
渡邊 そりゃそうだよ、(振り向いて) マンションの人たち、出てきちゃうよ。  
ミレー 供養だと思ってる。  
渡邊 不謹慎だぞ。  
まあこ じゃあ私やるよ(挙手)。  
ポン え、じゃあ私やる(挙手)。  
ミレー いやいや、私でしょ(挙手)。  
渡邊 ベタだな！  
3人 ねえー。  
渡邊 えー。あ、じゃあ、みんなで作ろうよ。発声。ね。  
まあこ 嫌だよ、なんでやんなきゃいけないの。  
渡邊 それ私のセリフ！

笑う4人。

ミレー ねえ、わーちゃんって中学じゃ弄られ役だったの？  
ポン どうだったかな。  
渡邊 いや、そんなことないと思うけど。  
まあこ 普通、でしょ。  
ポン フツー。  
ミレー フツー(笑う)。  
渡邊 そこ笑うとこ？  
ミレー 分かんない。なんか笑える、普通って。  
渡邊 ミレーって本当はぼっちキャラなんだよ。  
ポン え？  
ミレー ねえー、  
まあこ それ触れていいやつ？  
渡邊 全然、だってキャラだもん。  
ミレー キャラじゃないし。  
渡邊 いいよね、得だよねー。  
ポン ぼっちにキャラとかあるの？  
ミレー 同じクラスに何人か、無駄に構ってくる子らがいるのよ。  
渡邊 誰かなー？  
ミレー(頷く) 群れたくない。  
渡邊 こういうこと言うの。  
ポン 仲いいね。  
2人 良くない。

渡邊とミレーのハモリに笑うまあことポン。

まあこ ねえ、それよりどうする？

渡邊 え？

ポン そうだよ。声、出そうよ。

渡邊 あれ、やる気じゃん。

ポン なんか元気出てきた。

まあこ 何それ、元気なかったみたいな。

ポン あるわけないじゃん。

まあこ んん。ごめん。

渡邊 ミレーは？

ミレー どうやるの。

渡邊 ちゃんと立って。ほら、まあこも。

まあこ 私も？

渡邊 言い出しっぺなんだから。

まあこ そうだっけ？

渡邊 お腹が膨らむように吸って、

ポン お腹？

渡邊 指三本くらい入るように口を開けて、

渡邊、発声。

まあこ うるっさ！

ミレー 響くね、ここ。

渡邊 こんな感じ。

ポン わー(拍手)。

渡邊 気持ちいい。

まあこ 晴れやかな顔だなー。

ミレー ねえ、足は肩幅でいいの？

渡邊 何、本気でやるの？

ミレー 吹奏楽部の肺活量なめんなよって感じで。

ポン 火がついた？

渡邊 (首を傾げる)

まあこ ねえ、どうせならなんか言おうよ。

ミレー あ、それいい。

ポン 好きな食べ物？

渡邊 食いしん坊か。

まあこ 今食べたいもの。

渡邊 だから食いしん坊かって。

ミレー 昨日の夕飯、

渡邊 だからー！ やめて？ 私で遊ぶのやめて？  
ミレー わーちゃんて突っ込み役だった？  
まあこ いやあ、  
3人 フツー。  
渡邊 だからー！

4人、笑う。

まあこ なんだろ、私ら何やってんだろ。  
渡邊 っていうかミレー打ち解けすぎ。  
ミレー 確かに。  
ポン あー、面白い。  
まあこ で？  
渡邊 ここはやっぱり、マユミに一言。

4人、一息つく。マユミを思う。

ポン 誰からいく？  
まあこ え、バラバラ？  
渡邊 そうでしょ。  
ミレー みんなでやったら、  
ポン 何言ってるか分かんなくなるよね。  
ミレー ね？  
まあこ そのほうがいいよー。  
渡邊 聞かれたくないこと言わないでよ。  
まあこ 例えば？  
渡邊 例え？  
ポン あれでしょ、恥ずかしい感じのでしょ。  
ミレー 青春って感じの？  
渡邊 そっちかー。  
ミレー どっちがあんの。  
渡邊 わかんない、へそくりの場所とか？  
まあこ どういうことソレ。  
渡邊 いや、分かんないけど。  
ポン じゃあじゃあ、一斉にしようよ。ね。

ポン、まあこに見えないようほか2人に対して「しーっ」のポーズ。  
了解する2人。

渡邊 よし、じゃあ4人みんなで言おう。決まった？

まあこ え、待って早くない？ もう決まったの？  
ポン うん。  
まあこ えー、じゃあ、うん、オッケー。  
渡邊 あ。なら、みんな一緒に吸って、私が手で合図したら言おう。  
ミレー わかった。  
渡邊 吸ってー、

渡邊、合図。

まあこ ごめー……ん！？ ねえ、ちよつと！

笑う3人。

まあこ ひどくない！？

ポン 結構声出たよね。

ミレー 出た。

まあこ そりゃ出すよ。出るよ。

渡邊 そうだよ。ごめんごめん。

まあこ ほんとだよ、ごめんだよ。

ポン ねえ、マユミに謝るってなんのこと？

まあこ いや、だからさ。みんなで言うって言ったから言ったんじゃん？

渡邊 言う言う言ってる。

まあこ ねえ、そこ笑うところ？

ミレー あー面白い。

ポン 私たちには言えないこと？

まあこ いや、別にそんなことないけど。

渡邊 じゃあ教えて。

まあこ 私、お通夜もお葬式も行かなかったから。

ポン 用事あったんじゃないの？

まあこ そうなんだけど、休もうと思えば休めたし、ね。

ポン なんで？

まあこ んー……。

ポン 別に、責めてないよ。なんでかなって。ほとんど全員来てたし。

まあこ ……見たくなかったんだよね。みんなの、暗い顔。

ポン ……。

まあこ 苦手。

ポン でも、死んだんだよ？

まあこ だから、分かっているって。だから「ごめん」なんじゃん。

渡邊 まあまあ。まあこにも思うところがあるわけだから。



ポン まあこだって助けてもらったじゃない。応援合戦のとき、マユミがいなかったらハブられたまんまだったじゃん。

まあこ それとこれとは関係ない。

ポン あるよ。

まあこ 応援リーダーなんて勝手に入れられたんだよ、部活あるのに。それで練習サボったらハブられるとか、意味不明だよ。

ポン マユミが助けてくれた意味は？ マユミが死んだ意味は？

渡邊 ねえポン、

ポン 分かっているの？

間。

まあこ 走ってるんだよ。

ポン ……？

まあこ この遊歩道。マユミが落ちた遊歩道。毎日、走ってるんだよ。毎日通り過ぎるんだよ、この、落下点を。何度も。何度も……。

まあこ、落下点を見つめながら、ゆっくりと後ずさり。

立ち止まり、

まあこ ごめん。

まあこ、走り去る。

渡邊 まあこ！

渡邊、動かないポンを見て、まあこを追って去る。  
しばらくの間。

ミレー 私は、行きたかったな。

ポン え？

ミレー もっと、早く知りたかった。マユミちゃんのこと。

ポン ……ミレーちゃんは、マユミとどんな関係？

ミレー 残念なことに、なんの関係もない。話したことも、学校で顔を見た記憶もなかった。

ポン じゃあ、どうして？

ミレー 強いから。私の、逃げ道を作ってくれた。

ポン それ、どういう意味？

ミレー ポンちゃんと、まあこちゃんが助けられたのと同じこと。

ポン ……でも私たちは、助けられなかった。私は近くにいたのに、マユミの近くに、いたのに。

ポン、膝を抱えて泣く。

ミレー（ポンに対して呟く）ごめんね。

携帯電話の着信音。  
ポン、出る。

ポン まだ、来てない？ ううん。今から行ってみる。うん、わかった。じゃあ。

ポン、一息つく。

ミレー 弟さん、まだだって？  
ポン（頷く）

ポン、立ち上がる。

ミレー 会えてよかった。  
ポン またね。

ポン、まあことは反対に駆け去る。  
舞台には、膝を抱えるミレーとお米とコーラと板チョコ。  
蛙の鳴き声が響く中、ミレーはコーラの蓋を開け、一口飲む。  
そこへ渡邊が戻って来る。

ミレー どう？

渡邊 見失った。

ミレー そう。

渡邊 何、飲んでるの？

ミレー コーラ。

渡邊 いや、そうじゃなくて。

ミレー 本気でお供えする気？

渡邊 うん……。

ミレー こんな所に放置したら、カラスか小学生の餌食だよ。  
渡邊 ……ちようだい。

渡邊、ミレーからコーラを受け取ってぐびぐび飲む。

ミレー ねえ、げぼげぼしないでよ？  
渡邊 出そうになったら言う。  
ミレー いいよ、言わなくて。

渡邊、座って地面を見つめる。

渡邊 ミレーさ、帰らなくていいの？

ミレー、腕時計を見て、

ミレー まだいい。

渡邊 明日も学校だよ。

ミレー 明後日も学校。

渡邊 しあさっても。

ミレー ずっとずっと、

渡邊 続くような気がする。

ミレー それが良いのか悪いのか、

渡邊 わかんない。

ミレー ただ、

渡邊 ただ？

ミレー 終わらせることはできる。

渡邊 またその話？

ミレー またこの話。

渡邊 怒るよ？

ミレー もう怒ってるじゃん。

渡邊 いい加減疲れる。

ミレー じゃあ帰って寝たら？

渡邊 寝たら戻るかな。

ミレー 戻らないよ。

渡邊 戻らないか。

ミレー 取れるよ。

渡邊 何が？

ミレー 疲れ。

渡邊 取れないよ。

ミレー 取れないか。

渡邊 覚めないかなあ。

ミレー 夢？

渡邊 夢。

ミレー 覚めないよ。

渡邊 覚めないか。

ミレー だってこれ、現実だから。  
渡邊 終わるの？ いつか。  
ミレー 終わるよ。いつも。どこかで。

渡邊、ミレー、ゆっくりと倒れ、落下点に頭を寄せて寝る。  
(仰向けでも、身を丸めて顔は正面でも自由に)。

ミレー さっき、わーちゃんは、マユミちゃんになんて言うつもりだったの？  
渡邊 (上半身だけ起こして) 馬鹿やろー！！……って(再び寝る)。

ミレー、笑う。

渡邊 ここ笑うとこ？

ミレー おかしい。

渡邊 そう？

ミレー 死者を罵倒って。

渡邊 罵倒ってほどじゃないし。

ミレー なんで？

渡邊 ……ミレーには、話してなかったことなんだけど、  
(身体を起こし) 何？

渡邊 マユミ、飛び降りる直前、私に電話してきたんだよ。

ミレー え？

渡邊 空中でも、落ちてからも、電話は繋がってた。

ミレー なんで、そんな大事なこと黙ってたの。

渡邊 大事？

ミレー そうじゃん。最後の言葉だよ？

渡邊 最後の言葉だから何？

ミレー 大事じゃん。

渡邊 だから？

ミレー だから、  
なんでそんな大事なことを、私に、言うのよ……?!

間。

渡邊 死にたくなるよ。

ミレー ……。

渡邊 なんてあんなこと言ったのか分からない。なんで私なのかも分からない。  
怖いんだよ……、マユミが、私を誘ってるみたいで。

ミレー ……なんにせよ、いいじゃん。

渡邊 は？

ミレー 関心もたれてたってことじゃん。  
渡邊 本気で言ってる？

ミレー 私マユミちゃんのことなんにも知らない。名前さえ死んでから知った。  
渡邊 私、ミレーのこと最近わからない。

ミレー 私だって分かんない。  
渡邊 ひとりが楽なんだろうーなーってくらいにしか思ってたけど、マユミのこと知ったあと、変わった。

ミレー どんな風に？

渡邊 怖いくらい、明るくなった。

ミレー いいことじゃん。

渡邊 よくないよ。

ミレー なんだ。

渡邊 同級生が自殺して明るくなるって、おかしいよ。

ミレー おかしくないよ。

渡邊 おかしいって思わなきゃダメなんだよ！

ミレー 明るくなったんらしいことじゃん。

渡邊 ミレーの感じてること、わかるよ。でもだからってマユミに寄っていくのは違うと思う。

ミレー 助けてくれたんだよ。マユミちゃんは。

渡邊 だったらそれだけでいいじゃん。それ以上近づいたら、

ミレー 何？ 私もここに落ちる？

渡邊 やめて。

ミレー 私は知りたいだけ。行動に移せるほどの気持ち。

渡邊 知ってどうするの。みんなそんなの知りたくないじゃん。

ミレー 中途半端が一番キツいんだよ。0か100か、どっちかにしてほしい。優しいのか、狂ってるのか、どっちか私にはまだ分からない。

間。

渡邊 笑ってた。

ミレー なに？

渡邊 マユミ、笑ってたんだよ。最期は。でも、本当は泣いてたかもしれない。

私には、分からなかった。電話の向こうでどんな顔をしてるのか分からなかった。聞こえたはずの笑い声は、泣き声だったかもしれない。何が本当で何が嘘か、私にはもう分からない。

そこへポンがやってくる。舞台後方上空を見上げている。

ミレー ……？

渡邊 ポン？

ポン　ねえ……。あれ、誰かな？（指す）

視線と指の先は、マンションの10階。

3人、見る。  
夕暮れ。

3人　……。

ポン　違う、よね。あれ、龍ちゃんじゃないよね……？

渡邊　覗き込んでる。

ミレー　こっち見てる。

ポン　ねえ、

渡邊　嘘でしょ？

ミレー　飛ぶの？

ポン・渡邊、ミレーを見る。

ミレー　だって、片足、浮いてるじゃん。

3人、ただ見上げる。

そこへまあとこが走ってくる。

まあとこ　ポン！

渡邊　まあとこ。

まあとこ　アレ！　龍ちゃん！？

ポン、わなわなと震えて泣きそう。

まあとこ　しっかりしてよ！

ポン　龍ちゃん、龍ちゃんだと思っ……！！

まあとこ　110番！　あと、声出して止めなさいよ！

まあとこ、駆けて龍ちゃんの元へ急ぐ（去る）。

渡邊　ミレー、電話（携帯電話を渡す）。

ミレー　……。

渡邊　ミレー！

ミレー、110番。

渡邊、龍ちゃんに向かって叫ぶ。

渡邊 龍ちゃん！ 龍ちゃんッ！……生きてーッ！ ポン、ねえポン！ また後悔するよ？ マユミみたいに、何も知らないまま死んじゃうよ！？

ポン、立ち上がる。

渡邊とポン、叫ぶ。

やがて電話を終えたミレーは黙って見ていたが、携帯電話を握り締め、

ミレー 飛ぶならさっさと飛べーッ！

2人、ミレーを見る。

ミレー やれるもんならやってみろーッ！

ポン、ミレーに飛び掛かり、押し倒す。

ミレー 止める権利があんのかよ！

睨み合う2人。

渡邊、龍ちゃんのほうへ向き直る。

渡邊 大丈夫、大丈夫……。

渡邊、龍ちゃんに向けて、両腕を広げる。

渡邊 いいよーっ！、いいよーっ……！！

ポン、今度は渡邊に掴みかかる。

ポン ふざけてんの！？

渡邊 止められないよ。

ポン は？

渡邊 落ちるなら、受け止めなくちゃ！

ミレー (マンション10階を指して) あっ。

音楽。

ミレーの視線を、ポンと渡邊がゆっくりと辿る。  
間。

ポン、視線は上に向けたまま、膝から崩れ落ちる。  
上空から靴が片方、落ちてきた。

渡邊  
まあこ。

ミレー、靴を拾う。

渡邊は見上げ続けている。

溶暗。

お供えは片付ける。

溶明。

渡邊

「こんな世の中狂ってる」。あの日マユミは言いました。電話の向こうで、泣いていました。もうヤケクソって感じで、「アハハハハハ！」って、地面へと落ちていきました。……「バアンッ！」……「バアンッ！」「バアンッ！バアンッバアンバアンッ……！！！」

渡邊、地べたにゆっくりと崩れ、地面を叩きだす。

何度も、強く、叩く。叫ぶ。

渡邊

「アアアアアアアッ……！！　アアアアアアアッ……！！！」

赤くなった掌を見つめる。

ふと、リュックから、コップとコーラと携帯電話を取り出す。

コップに携帯電話を入れ、そこへコーラを注ぐ。

じっと見つめる渡邊。

大きく息を吐き、立ち上がる。

制服を脱ぐ。体操服姿になる。

髪を縛る。準備運動を始める。

そこへまあこがやってくる。

渡邊を見て止まり、コップや脱がれた制服に目をやる。

まあこに気付く渡邊。

渡邊

……私も走る。

まあこ

どうしたの。

もう、電話越しじゃ嫌。顔が見えないのは嫌。遠いのは嫌。冷たいのは嫌。笑ったっていい、泣いたって死んだっていい。でも、全部目の前がいい。

間。

まあこ、渡邊の制服を畳み始める。

まあこ

持久走。

渡邊

……。





ポン  
……。

ポン、無言でサイダーを落下点に置く。  
コップを見て、

ポン 何？ これ。

渡邊 腐った文明の炭酸漬け。

ポン ……まずそう。

まあこ ねえ。

ポン ん？

まあこ ポンも走ろうよ。

ポン なんで？

まあこ 体、なまってるんじゃない？

渡邊、ふいにポンのお腹に触れる。

ポン ちよつと！

渡邊 ポンのお腹ぼんぼん。

まあこ あはは。

ポン ちよつと食べ過ぎてるけど、ぼんぼんとまではいかないでしょ。ほら！

まあこ いいって！ 見せなくていいから！

渡邊 ポンも走る。一緒に。

ポン ……じゃあ、これ（コンビニで買ったもの）、リュック入れていい？

渡邊 入るかな。

まあこ どっか、奥に隠しておこうよ。

ポン 盗る人いる？

渡邊 変態がいるよきつと。

まあこ 警戒するに越したことはない。

渡邊、リュックを舞台後方へ持っていく。  
準備運動を始めるポン。

まあこ ミレーちゃんもいたらよかったね。

ポン いいよ、あの子はいなくて。

まあこ どしたの。

ポン 飛ぶなら飛べって言ったんだよ。

まあこ え？

渡邊 ミレーだって、死んでほしかったわけじゃないよ。

ポン でもあの状況で言う？

渡邊 あの状況だから、じゃないかな。

ポン　なんで庇うの？

渡邊　「ほんとう」が、欲しいんだよ。

まあこ　「ほんとう」？

渡邊　「ほんとう」

ポン　……。

渡邊　みんな適当で、無責任で、上っ面だけでも生きていられるから、世の中狂ってるんだよ。

ポン　マユミの言ってたことって、ほんとうに、そういうこと？

渡邊　たぶん。私は、そういうことだと思う。

ポン　お父さんと弟は？「ほんとう」じゃないなら、嘘だったの？

渡邊　……。

ポン　なんで、最後の電話が私じゃないの……？

間。

まあこ　マユミも、嘘、ついてたのかも。

ポン　どんな？

まあこ　……分かんない。

ポン　死んじゃったら、何も分かんない……。

渡邊　死んでなくても、分かんない。きっと、死ななきゃ、誰も分かってほしい。

間。

ポン　わけわかんない。

渡邊　走ろう。

ポン　なんで、

渡邊、ポンの携帯電話を取って、コップに突っ込む。

ポン　あ！

渡邊、ポンを抱きしめる。

渡邊　要らないよ、あんなもの。

長い間。

ポン　私、ちゃんとマユミのこと、見てなかったのかな？　マユミの声、聴こえてなか

ったのかな……？

渡邊　分からない。でも、今、私のこと、ちゃんと分かるでしょ？

ポン、抱き返す。何度も頷く。  
2人が抱き合ったまま、

まあこ ミレーちゃん、呼ぶ？

渡邊 あの子、携帯持ってない。

まあこ え？

渡邊 明日、誘ってみる。

まあこ うん。

渡邊 龍ちゃんも、一緒に走ってくれるかな？

まあこ あ、それいいね。一緒に走りたい。

渡邊 ねえポン、

ポン (鼻をすすり、)あとで訊いてみる。

渡邊 (頷く) よろしく。

まあこ (微笑み) 暑い夏になりそう。

渡邊 (微笑む)

ポン ねえ、

渡邊 ん？

ポン、渡邊の顔を見る。

ポン 太った？

渡邊、逃げようとするが離さないポン。

渡邊 まあこ助けてー！

まあこ 先行くね。

渡邊 あーっ。

まあこ、駆け去る。

渡邊 私だって最近ちょっと食べ過ぎてるけど別に……

ポン、渡邊をじっと見つめる。音楽。

渡邊 ……。

ポン 元気？

渡邊 ……元気。

ポン ほんとのホントに元気？

渡邊 ……ほんとの、ホントの、本当は、……。

渡邊、ポンの胸に顔をうずめる。  
ポン、渡邊の頭を撫でる。

ポン 狂ってる？

渡邊 (首を横に振って) ……狂ってない。

ポンと渡邊、微笑んで駆け去る。

幕

【一部の演出意図および変更について】

- ※1. 作中では「舞台後方がマンション」の設定です。  
これは観客の皆さまにも見上げる側に立っていたただくことを強調するものです。  
登場人物が客席に背を向けるため表情が見えないことも含め、意図的なものです。
- ※2. マユミの自殺理由は敢えて明示していません。
- ※3. 靴を落とす演出について、舞台の都合上不可能であれば省略してください。